

【対策】

- 野生の動物，具合の悪そうな動物，行動のおかしい動物には近づかない。
- 万一狂犬病の可能性のある動物との接触があった場合は，すぐに石けんと水で 15 分間傷を洗浄し，速やかに医療機関を受診する。

1 概要

(1) 狂犬病は，英語で rabies，セツワナでは molafo と言います。ボツワナでは，20 年近く人間の狂犬病発症例がありませんでしたが，2019 年以降数例の感染例が報告されています。一旦病気を発症すると，ほぼ 100%の致死率となりますので，十分注意が必要な病気です。

(2) 狂犬病は，狂犬病ウイルスに感染した動物に噛まれたり，引っかかることにより，唾液内にいるウイルスが，傷口や粘膜から侵入し，人を感染させます。人へ狂犬病を感染させる主な動物はイヌですが，ネコ，家畜類（ウシ，ヤギ，ロバ等），野生動物のジャッカル，マンガース，コウモリも狂犬病ウイルスを持ちます。

(3) 当国では接触事例が年間 1500 件程度あり，保健省は注意を喚起しています。また，2020 年以降，ナミランド（Ngamiland）地区で動物の狂犬病が流行しており，人間の発症例もありますので，野犬を含む野生動物には触れないでください。

2 狂犬病の症状

狂犬病ウイルスが体内へ侵入してから，病気が発症するまでに約 1 ～3 か月かかります。

(1) 狂犬病症状は

- 前駆期：発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや搔痒感
  - 急性神経症状期：不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状
  - 昏睡期：昏睡（呼吸障害によりほぼ 100%が死亡）
- の経過をたどります。

(2) 感染したイヌは，

- 前駆期：性格の変化と行動の異常
  - 狂躁期：興奮状態（無目的な徘徊、目に入るものを頻繁に咬む）、光や音の突然刺激に対する過敏な反応
  - 麻痺期：全身の麻痺症状による歩行不能、咀嚼筋の麻痺による下顎下垂と嚥下困難、舌を口外に垂らしながら流涎、昏睡状態になり死亡
- の経過をたどります。

### 3 疑いのある場合の処置

(1) 狂犬病の可能性のある動物との接触があった場合は、すぐに石けんと水で 15 分間傷を洗浄し、医療機関を受診してください。

(2) 事前に狂犬病ワクチンの接種をしている方でも追加でワクチン接種をする必要があります。事前のワクチンを接種していない方は、ワクチンと傷の程度で免疫グロブリンを注射する必要があります。ワクチンは当地で接種可能ですが（ワクチンの流通状況にも左右されます）、免疫グロブリン注射は当地では入手できず、南アフリカの病院を受診する必要があります。

(3) 噛んだ犬が狂犬病の感染があるかは、イヌを捕獲し検査をする、または今後狂犬病を発症するかを観察が必要です。イヌのワクチン接種証明書がある場合も、証明書がそのイヌのものか、最新のものかをよく吟味することが必要です。

(4) 感染した家畜は焼却処分することになっていますが、食したとの報道もあります。食肉の摂取により感染することはありませんが、解体作業中のけがなどで感染のリスクがあります。

### 4 予防

(1) 予防として、以下の点に留意してください。

- 野生の動物、具合の悪そうな動物、行動のおかしい動物には近づかない
- 村で狂犬病の家畜などが発生した場合や、野犬がいる場合は特に注意する。

(2) 事前の予防接種

野犬の多い地域、動物と接触する機会の多い方、子供等は、事前の予防接種を検討してください。